

令和3年度 技能コンテストの質疑に対する回答

別添4

(※質疑内容については、趣旨を損なわない程度で要約しています。)

1 競技要領 (別添2)

該当項目	質疑内容	回答
2 (5)	「任務分担及び乗車区分に基づき車両・機械器具を点検する」とあるが、この時点からビデオ撮影をしていなければならないのか。	ビデオ撮影開始のタイミングは、開始報告前の中隊長の「集まれ」の号令から行ってください。 参照：審査要領4 (5)
4 (1) オ 4 (2) ウ	中隊長は隊員の活動補助をしてもよいのか(消火栓のキャップを外す行動、ホースのよじれを修正する行動等)。 ビデオ審査の段階で「監視不十分」と取られないか。また、「他の隊員の失念した動作のリカバー」と取られないか。	中隊長が一時的に隊員の活動補助をすることだけで減点とはなりません、適宜、専任部分の活動を行ってください。 参照：競技要領4 (1) オ 4 (2) ウ
4 (2) ウ	「全隊員の動作及び操作を十分に監視し、中隊長全ての安全管理を行うとともに、活動内容を掌握すること。」とあるが、全隊員の活動範囲が広く、また全隊員が様々な行動をとるため、中隊長から死角になってしまう隊員が発生する。 中隊長が監視しきれない部分を小隊長が監視できていれば、問題ないか。	一時的に、中隊長の目視により全ての動作及び操作を監視することができない場合でも減点対象とはなりません。 なお、小隊長が中隊長の専任部分を兼務することはできません。 参照：競技要領4 (1) オ 4 (2) ウ
4 (4) オ	機関員が実施する「自車の適宜適切な安全管理」は、4 (1) オのなお書きに「中隊長及び機関員は、専任部分の活動に支障がない範囲において専任部分以外を兼務することはできる。」とあることから、専任部分の活動に係る範囲のみと解してよいか。 それとも自車のそばを離れることは安全管理不備とされるのか。	機関員が一時的に車両を離れることだけで安全管理不備とはなりません、適宜自車の安全管理を行ってください。 参照：競技要領4 (4) ウ、オ
4 (5) ウ	「安全操作及び機械器具の愛護に心掛け、結合金具の著しい振り回し、落下、投げ捨て、蹴飛ばし、踏みつけ等の危険行為をしないこと。」とあるが、ホース延長時にメス側のはかま付近を踏んで延長する操作要領になっている。 これは危険行為(踏みつけ)に該当しないとの認識で良いか。	お見込みのとおりです。 参照：競技要領4 (5) ウ
4 (5) カ	高所放水車のジャッキ部分の敷板が事前に取り付けが可能なタイプである。「別紙様式2 6 車両特性」への記載及び再提出で問題ないか。 【敷板取り付け状態】 【敷板のみ】 	お見込みのとおりです。 どのタイミングで取り付ける仕様なのかについても記載してください。(アウトリガー張出し前、ジャッキアップ前など) 参照：競技要領4 (5) カ
4 (5) カ (オ)	「スプリングロック機能の無い車両の場合は、車輪止めを再設定すること」とあるが、車輪止めは前輪の輪止めの事か。 また、後輪にも輪止めが必要か。	車輪止めの設置についても、車両の操作要領と同様に各事業所の配備車両の取扱要領どおりとしてください。 参照：競技要領4 (5) カ (オ)
別紙「石油コンビナート等における自衛防災組織の技能コンテスト競技フロー」 放水停止：隊員等	「小隊長の「おさめ」を受命後、消火栓の停止及びP T OをO F Fにし、～後、待機線に集合する。」とあるが、事業所の大型化学高所放水車は、消火栓を停止しないと、塔送水コックが閉止しない。 「放水やめ」の時点で消火栓を停止してよいか。	車両特性に応じて「放水やめ」の時点で、消火栓を閉止して問題ありません。 なお、質問された消防本部は、参加希望時に提出した「別紙様式2 6 車両特性」に記載して再提出してください。 参照：競技要領4 (5) キ (カ)、(キ) 別紙「石油コンビナート等における自衛防災組織の技能コンテスト競技フロー」

別図 2-1 「各種位置・乗車配置」	高所放水車と化学消防車の車間距離が10メートルとなっているが当コンビナートでの通常訓練では車間距離を5 m以下で行なっている。審査時の車間距離も5 mでもよいか。	車間距離は計時審査に関わる部分であるため、車間距離は10mとしてください。 参照：別図 2-1 「各種位置・乗車配置」
--------------------	---	--

2 審査要領（別添3）

該当項目	質疑内容	回答
別図 1-1～2-2 「競技カメラ配置図例」	「左図において想定火点を車両の反対側に設置する場合は、1カメラと2カメラの位置を入れ替える。」とあるが、1カメラの位置を約10mの位置、2カメラの位置を約20mの位置に設置するの か。	お見込みのとおりです。 想定火点を車両の反対側に設置する場合、想定火点側のカメラ（1カメラ）の位置を車両から10m、火点反対側のカメラ（2カメラ）の位置を車両から20mに配置してください。3カメラ、4カメラについても同様です。 なお、ビデオ審査時に全ての範囲が映るよう現地でカメラ位置を調整することもあります。ご容赦ください。 参照：別図 1-1～2-2 「競技カメラ配置図例」

3 その他

該当項目	質疑内容	回答
	競技や訓練中の号令、下命および復唱等、大声を出す場面では新型コロナウイルスの飛沫感染リスクが懸念され、マスクが有効だが暑い中での訓練では熱中症リスクが高まる。 新型コロナウイルス感染対策と熱中症対策を上手くバランスさせる方法はないか。	屋外で人と十分な距離を確保しているなど、現場の状況に応じてマスクの脱着を判断していただくようお願いいたします。